

公認大会のありかたを考えるワーキンググループ パブリックコメント募集に対する応募内容

2019年5月6日

公益社団法人日本オリエンテーリング協会

公認大会のありかたを考えるワーキンググループ 座長 奥田健史

2019年3月18日に募集を行いましたパブリックコメントを公開致します。多数のコメントを頂きました。ありがとうございました。

意見 1

ワーキンググループでの検討お疲れ様です。

ご検討の内容を拝見いたしました。現行の制度設定の中で苦勞されていることがうかがえます。しかし、この改革方向は JOA としての事務処理が増える方向になり、現状の JOA 活動を見る限り方向性が決まってもその運用が難しいのではないかと考えられます。

今回は、規則から根本的に見直し、事務を縮小できる部分は縮小していくことも考慮すべきかと思えます。

目的は皆様と一緒にですが、方向性としては、規則で縛る部分と JOA 事務局の仕事を減らし、一方でイベントアドバイザー (EA) のステータスを向上させ、運営者にちゃんと話を聞いてもらう体制を作ることを提案します。

公認大会の他のクラスに対して規則の縛りがなくなることになり、他のクラスがないがしろにされるという危惧があるかもしれませんが、最上位クラスのステータスを維持することで他のクラスの地図・コースの質は維持されます。適切なクラス分けが行われれば、競技者登録をする他のクラスの参加者にも満足いただけるものと思えます。

以下ご参考にしていただくと幸いです。

記

1. 公認大会を開催しやすくする件、大会制度の改善に関して

1. 競技期規則適応の対象を公認大会の最上位クラス (2 1 E または 2 1 A、2 0 E のセレクションを兼ねる場合は 2 0 A もしくは 1 8 A まで) および国際大会選考クラスに限定する。

※5

他のクラスに関しては、競技規則から大きく逸脱しない限り、EA と相談の上柔軟に対応する。(主催者が他のクラスにおいても規則を適応するのはもちろん自由)

EA は他のクラスの件についてもアドバイスするが、責任を持つのは該当クラスのみとする。

2. 4 大大会については現行のガイドラインをそれぞれの大会ごとに改定したガイドラインを用いて対応する。(この中でガイドラインの精神を残す) ※4

3. EA の現地までの交通費を JOA が負担する。(IOF にならう) ※1

4. 競技規則には IOF の附則を訳して追加し、公認大会以外の大会では、IOF 規則の附則である 1.一般的なクラス、2. コース設定の原則 3. 環境に関する規定、6. (特定の競技種目名を名乗る場合は) 競技種目に準じて行ってもらえばよい。プログラムには附則の 1-3 (6) に準ずると書いてもらえばよい。

II. 運営側の資格について

1. 運営責任者という文言は慣例的に使われているが JOA 競技規則にはない。新しく文書を作る際には現状を追認して競技責任者、運営責任者の定義を明確にするか、IOF のようにイベントディレクターに統一すべき。(多分 JOA の規則における競技責任者がイベントディレクターにあたると考えられるが、伝統的な運用では、地図・コースに関する事項の責任者が競技責任者ととらえられているようである。)

2. 重要なのは、運営側に資格者がいることよりも、運営を規則に則って行う (もしくは規則に則って EA のアドバイスを受ける) 確認ができることなので、EA 制度が採用されるなら運営者の資格規定は外しても良い。(ただし、EA を増やすことが目的なら、この制度は残すこともあるが。) ※³

III. 資格を取りやすくする件に関して

1. 資格をとった方がその能力を維持発展するのが肝要。EA が運営の修正内容について根拠を明確にして、しっかり説明する、または代替可能性を提示できるスキルを持つ必要がある。そうすれば EA を設けることが運営側のメリットになる。 ※²

2. IOF にならってディレクタ制度は EA 制度に統一すべき。ソースが限られているので資格は少ないほうが講習会や研修会を行いやすくなる。

3. 指導員制度はイベントコントロールのためのものではないのでコーチ制度として別に立てる。

IV. 提示された公認大会の問題点について上記提案との関連

- ・ 会員支援金が高すぎる ※ 1、※ 2
- ・ 指導者資格を持った責任者・イベントアドバイザー (EA) の確保が困難 ※ 3
- ・ 申請の期限が早すぎる (これに関しては EA が適切なコントロールをするのに必要ではないかと考えます。)
- ・ クラス分けが性別・年齢ごとに強制される ※ 4 (普通の公認大会には規則適応がなくなる。しかし、附則をできるだけ尊重するようにしてもらい。若年層や、ベテランが統合困難な理由を EA が説明できる必要がある。)
- ・ リレーは公認の対象になっていない ※ 5 (最上位クラスを適応)
- ・ 競技規則類の遵守が求められることが心理的ハードルとなっている ※ 5

最後になりましたが、別に指導員制度の改革も発表されているようです。良く擦り合わせていただき、改革が実りあるものとなりますよう希望いたします。

意見 2

現状分析

課題

オリエンテーリングの公認大会開催数が減少していることを背景に、以下の課題を解決するコメントが求められていると理解しました。

- ・全日本大会エリートクラス出場権獲得の機会を増やす
- ・参加の公平性・競技性の担保

ワーキンググループの提案する方針(要約)

・今後の公認大会ありかたについて、「大会の質を上げる」「開催のハードルを下げる」の両面により改善する

大会の質は「運営する組織の力」によって担保される

・オリエンテーリング大会はクラブ・協会などの組織で運営するものであり、その質は「運営する組織の力」によって担保されます

・しかし現行(およびワーキンググループ提案)の公認大会制度においては、大会の質の担保をイベントアドバイザー・ディレクターという資格保持者のみに依存しています。(そこしか非公認大会と違いがない)

ワントップの「個」の力で高品質の大会を開くこともできますが、そのためには YMOE・NishiPRO クラスの力量が必要となります。現行のイベントアドバイザー・ディレクター講習はそのレベルの人材を育成する内容になっていません

・すなわち、イベントアドバイザー・ディレクターの起用により大会の質を担保できる、という主張は幻想であり、全く機能しない

提案

方針の変更

× 「大会の質を上げる」「開催のハードルを下げる」

↓

○ 「全日本エリートクラス参加資格の質を維持する」「開催のハードルを下げる」

具体的対策

1. 公認大会エリートポイントランキング制度を定め、上位から順に参加資格を与える

・例外規定も用意 [ex. 前年度全日本成績による予選免除、競技委員会推薦(海外遠征によるポイント不足など)]

2. JOA は会員(=都道府県協会)の推薦する大会をすべて公認する

・但しポイントランキング算出用成績データおよびコース地図の提出を義務づける

3. 競技委員会(あるいは別途専任チーム)は提出されたコース地図を確認し、あまりにも低品質な場合[ex. 地理院地図コピー、全て道走りコースなど]には推薦した会員に指導を依頼する

・しかし成績データ自体は取り消さずにランキングに反映する(参加者利益保護)

「事前に大会の質を見極め、公認する」のは困難です。

イベントアドバイザー・ディレクター起用など制度面の規定では保証になりません。大会毎に個別に監査すれば認定の精度は上がりますが、認定に要するコストが大きくなり過ぎます。ならば低品質な大会が混じることを許容し、資格対象レースの分母を増やすランキング制にすることで「低品質なレースの影響を相対的に小さく」します。

過去の実績として「地図がウソだろうと、山がヤブかろうと、速い奴は速い!」と言い切れますが、複数のレースから算出するランキング制ならば、運に左右された不本意なレースを無かったことに出来ます。

一発勝負でチャンピオンを選ぶ JOA 主催大会は高品質であって欲しいです。しかし予選(の何分の一)でしかない公認大会まで「高品質であれ! 開催数を増やせ!!」となると、日本中の大会運営のリソースすべてが吸い取られてしまい「普通」のオリエンテーリング大会を開催する余力がなくなってしまいます。

(この提案は、各地の大会を巡って歩くボーダーラインレベルのタコ・オリエンティアが有利になる案ですが、……それって悪いことでしょうか?)

要検討事項

・エリートポイントランキングの算出方法

・公認大会(特に最上位クラス)の要件 [参加資格・申請時期など]

意見 3

1980年7月号「オリエンテーリング・ニュース」の巻頭言に書かれています。「公認大会をより多く」とのタイトルで大会数の少なさを嘆いています。1980年というと第6回全日本大会の年で2000名近くが参加しているピークの時代です。昔も現在も同じ悩み事に意外な感じがしました。共通点があるとしたら手数を掛けた割に参加者が集まらず採算が合わない事ではないかと……。

地域クラブや学生クラブの主催大会は個性があり参加したくなるような大会が数多くあります。特に学生クラブの大会はサービス精神旺盛でおもてなし満載のため参加したくなる

ります。「公認大会はエリートの大会だ、魅力的で楽しめる大会が他に一杯あるよ！」という声が聞こえてくるようです。百花繚乱の大会の中で公認大会の影が薄くなっている感じがします。

WGの提案は魅力的な公認大会にして参加者を増やそうという視点が欠けているような気がします。採算を度外視したE権獲得の選考大会ならいざ知らず、採算が合わなければ高品質な大会は成り立たないし、参加者が少なく赤字なら開催を敬遠するようになり目的を達成することが出来ません。一般参加者を増やす以外に道はないと考えます。

参加者が集まるような魅力ある大会にするにはどうするか、他の大会にない付加価値を付けることです。以下は付加価値の提案です。どれもさほど難しくありません。方針を決めれば直ぐにでも実行できる方法です。

【付加価値その1】

現在実施している年齢別ランキングの拡大充実です。第一は得点の公表が遅すぎます。魚や野菜果物の販売は鮮度が勝負です。それと同じで公表が遅いと興味が半減し効果が減少します。少なくとも大会終了後1週間以内に公表すべきです。第二は後述するデータベース化です。そして年間ランキングの最高得点者1名と全公認大会に参加した人を全日本大会に招待し讃えましょう。

【付加価値その2】

これが目玉提案です。クラブ得点の新設です。昨年度、関東地区の地域クラブを対象に始めた「OKリーグ2018」と主旨は同じです。全国の地域クラブと学生クラブを含めて実施することが違います。クラブ得点の公表鮮度はその1と同じです。

人数が多いクラブやエリートが多くいるクラブが毎年上位になるのは面白くないので、弱小クラブや高齢者クラブでも頑張りによっては上位になれるようなハンディ得点ルールの検討が必要です。クラブの人数&平均年齢を係数にすることも考えられます。

この付加価値の最大メリットはクラブの活性化に繋がり一石二鳥の効果があることです。参加者は個人の頑張りにより本人の成績アップとクラブへの貢献と二重の喜びを得られます。この付加価値により公認大会の参加者は増加するはずと確信しています。

得点の上位10クラブを、全日本大会のクラブ対抗戦に参加資格を与えます。この10クラブは別に定めた得点ルールにより競い合い優勝クラブを決定します。一番強いのは大学クラブか地域クラブなのか雌雄を決する場となります。全日本大会が盛り上がることは

間違いなしです。

【付加価値の業務は誰が担うか】

J O A事務局にこの業務をお願いするのは酷です。それでは誰が担うのか。仕事をリタイアしたオリエンティアで時間的な余裕がありオリエンテering界に少しでも貢献したいという方は必ずいると思います。現役中は業務でエクセルは扱っているはずなので、少し関数の使い方を覚えればデーター処理などは難しくありません。パソコン操作を楽しみながら作業が出来、なおかつエクセル関数の勉強にもなるというメリットもあります。J O Aは業務委託するだけで良いのです。

【公認大会専用ホームページを開設】

主な内容を次の様になると、公認大会への関心が高まり参加したいと思われるなら開設の目的達成です。

- ① 年齢別ランキングとクラブ得点の公開について機動性と即応性が確保できます。
- ② 過去の公認大会成績をデーターベース化して蓄積し、検索により過去に参加した全ての公認大会の得点、成績、順位、クラス優勝者など瞬間に表示させるソフトを作成します。
- ③ アクセス数を増やすため斎藤カメラマンに撮影を委託し写真を掲載します。

w e b管理者とweb各ページの更新も上記リタイアオリエンティアに委託します。希望者が複数いれば、それぞれ役割分担すれば負担が軽くなります。これらの作業は全て自宅のパソコンで可能なのでそれほど負担にはなりません。J O A事務局の負担は全く増えることはありません。付加価値のご検討方お願いしてもらえたら幸いです。

意見 4

公認大会としてのありかた、参加者・運営者両方の視点から気づいた点、要望点などを記載いたします。

参加者視点

現状の公認大会に求められているもの

E 権取得のセレクション

E 権に関係ない参加者は「確実な大会参加の満足」を公認大会に求めている

公認大会に期待するもの

1. 競技性の担保

競技規則に則った運営、挑みがいのあるコース設定、トレインの適格性

2. 公平性の担保

競い合える環境、セレクションとしての相応しさ

3. イベント性の担保

練習会ではない大会としてのサービス、格式、情報公開、複数日大会など

上記が欠けてしまった公認大会は参加者不満が大きくなる。J O A 主催公認大会が都道府県持ち回りだった時代は競技性に欠ける大会が目につき、学生には参加料が高いだけで参加価値の低い大会と忌避されていた。

公認大会は高いお金をかけてでも（参加料、交通費）参加して楽しかったと満足できる大会であって欲しいという参加者の期待が大きい。インカレこそが公認大会として究極のあるべき姿？

運営者視点

主催者にとって競技規則に従って大会を開催するのは当然のこと。

にも関わらず公認化をためらう理由は何か？

主催者・運営者が公認化によって困ること 問題点

- ・ E A を引き受けてくれる人がいない。交通費等経費負担が重い。
- ・ 運営中枢者と E A の人間関係が確立できていて、双方に良い大会を作り上げていこうというお互いを尊重しあえる関係がないと辛い。昔 33 回全日本大会を北海道で開催した時は運営側におかしな事を言う者がいてコントローラーに大変な迷惑をかけてしまった。
→おかしな大会を委嘱されると E A もつらい・・・。

- ・ 運営者にディレクター、インストラクター資格者を必要とするといった問題。
→学生大会にとっては非常に高いハードル、1 年計画では対処できない可能性。昔北大大会を公認化するために札幌 O L C と共催とすることによって乗り切ったが名目だけで何の意味もなかった。（無駄）
→ディレクター、インストラクター資格は事実上 J O A の集金ツールで形骸化しているのに実態に合っていない。

- ・ 参加資格に競技者登録を課すことによって参加に制限を課すことになる。集客の阻害。
→理念は理解できるが一定数の公認大会が開催されてないと意味をなさない、むしろ害。
→オープンクラスを充実させることによってある程度は回避。運営は手間が増える・・・。

→スキーOやトレイルを公認化したら競技者登録を要求されてむしろ参加者減るのでは？

・申請期限が早い（？ 私はそう思わない）

・たった3名の裁定委員を依頼するのは意外と大変。

→みんな観光や帰りの交通機関の都合で早く帰りたい。1名はE A資格を要するという縛りがあるといつも同じ人・・・。

競技者登録に関する問題 運営にとって最大の事務負担？

・競技者登録チェックはとても手間。

7月・8月の大会開催は運営者が非常に困惑させられる。

競技者登録の登録制度が潤滑に運用されていない。昨年の札幌OLC大会では特に日本学連経由の学連登録者の更新が7月上旬のJOA公示リストに反映されず6月末参加締切、8月開催の大会運営に困惑した。→7月開催だったらどうなっていたことか・・・。

・E権に絡む者でも自分の競技者登録状況に無頓着な人がいる。

スタートリスト作成に困ってしまう。（成績確定後に実はこの人競技者登録しておらずEクラス出場資格ありませんでした、E権獲得は無効でしたでは困る）

平成28年に開催した札幌OLC大会ではJOA競技者登録リストに掲載されていなくても学連に申請済みという理由の救済方針で大会開催したらM20Aの年齢ミスを見逃してしまい他大会E権適用に迷惑をかけてしまった。

規定がダブルスタンダードに見受けられる

・エントリー時に競技者登録を済ませている、少なくとも翌月初のJOA公示登録者リストに掲載されてなければいけないが、一方、「競技者登録に関する規定」では

2.6 競技者が登録申請できる期間は、前年度2月1日から当年度1月末日までとする。年度途中で登録した場合は、登録日の翌月から有効とする。

とあり、有効とは大会参加が有効なのか、大会エントリーが有効なのかが明確でない。

エントリー時に厳密に競技者登録済であることを適用してしまうと、都道府県協会や学連の登録作業漏れ救済が一切できなくなってしまう。（意外なほど登録漏れが多い）

上記解決以外に運営者側の要望として

同日に公認大会が重ならないよう日程コントロールをして欲しい

ロングディスタンス種目にセミロング（ミドル以上ロング未満）という種目を内包することを提案。季節事情、トレインの制約等でウィニング 60 分程度の種目があってもよいのではないか。（90 分は長い、用意困難等）

公認申請は「参加者の満足を約束する」J O Aとしての認定であって欲しい。公認化は主催者にとって参加者に対してコストをかけてでも参加の価値がある大会を提供するブランドアピール手段。

公認ブランドを高めるためにE Aの的確な助言、J O Aからお願いしてでもインカレを公認化する必要があるのではないか。

昨年は公認申請してくれたのに今年は申請しなかった東大大会にその理由を聞いてみるのも公認大会がハードルとなっている原因のヒントになるのでは。実績のある大会にはJ O A側から公認申請を依頼する姿勢がないと公認大会は増加しないと思われる。

※取り留めもなく書き連ねましたが、運営者も参加者も共に報われる大会開催がひとつでも多く増えることを願っております。

意見 5

パブリックコメントとりまとめ、お疲れ様です。
思っていることがあり、良い機会だと思いメールさせていただきました。

主催大会のBクラス（中級者）についてです。
最近、全日本ミドル、全日本大会などは、M50Bに参加させていただき、コースのレベルもしっかりと考えていただき、相応の技術と体力がないと勝てないと認識し、このクラスで頑張ろうと思っていました。

しかし先日の全日本は、BクラスはMBLとMBSの2クラスのみ。
エントリーを見送りました。

M50世代の頃のインカレの参加者は1000人レベル、子育てもそろそろ一段落し、潜在需要はある世代と思っています。

M50Aの1クラスだけで、すべての需要が満たせるとは到底思えません。

実際M50Aの上位は、当時選手権クラスで上位にいた方々が中心に競いあっています。

Aクラスを本当の意味で、世代トップを決めるレベルにするためにも、Bクラスの充実は必

要と思います。

Bクラスの参加者が少ないとの意見も出そうですが、同じクラブのロゲインしか出ない人に聞いたところ、OL大会の運営者はトップレベルのことしか考えていないのでOLには出ないと言っていました。

ここ数年、JOAとしてBクラスに力を入れてくれているのは、感じています。

しかし、それ以前はBクラスはおまけというような時代が長かったのも事実です。

信用を取り戻すのは時間が必要です。

その意味で、今回の全日本大会のクラス分けは個人的に、非常に残念でした。

各クラブの主催する公認はしょうがないですが、主催大会は考慮をお願いします。

意見 6

● 公認大会に参加する選手から見た、公認大会に対する要望。

○ 少なくとも最低限の満足が得られる大会であって欲しい。

最近、私が参加した2つの大会はどちらもかなり残念な大会でした。

1つは公認大会でしたが、経験者向けのオープンクラスはOAただ1つだけでした。

競技者登録していない私はそれに出たのですが、そのコースはM21A（優勝設定80分）と同じコースでした。

高齢者や高校生以下の子供、あるいは大学卒業して何年も競技から離れていて久しぶりに参加してみようと思った人、そうした人たちが参加するコースとしてM21Aのコースが適当でないことは明白ですが、この大会ではその点が見逃されていました。

また、私の知り合いの選手は事前で申し込んだのですが、競技者登録していないのでMBLクラスに申し込みました。

BといえどもNではないのですからそこそこの難易度のものが用意されていると思っての申し込みだったらしいのですが、実際には一般的なNのコースよりも易しいようなつまらないコースだったそうです。

優勝設定50分に対して実際のトップが20分12秒というタイムだったことがつまらなさを象徴していると思います。

もう1つは伝統ある愛知県民大会です。

私が参加したクラスはM65（優勝設定35分）でM50（同30分）やM15（同30分）と

同じコースでしたが、M65 は優勝者が1 6分4 4秒でビリが2 9分4 1秒、M50 は同じく1 3分2 4秒と2 0分1 0秒、M15 は同じく1 1分3 5秒と2 0分4 2秒でした。(W65 も同じコースでしたが似たような結果でした)

これらのクラスではビリの人ですら優勝設定より速く、M15 の優勝者にいたっては設定の4 0%以下です。

当然というか、コースは易しすぎてつまらないものでした。

どちらの大会も運営経験豊富な人たちが運営していますし、公認大会にはイベントアドバイザーもかかわっていました。

そんな人たちでもこのようにクラスの参加者のレベルに合わないコースを用意してしまっているのです。

基本的なところで大失敗をしているのです。

他の大会でも、スタート地区までの誘導がへたくそな大会、未だにいっぱいあるでしょう？ 結局、OL 界のかなりの部分は何年たっても何十年たってもほとんど改善が進んでいないという事ではないでしょうか。

もちろん素晴らしい大会をやっているクラブもあります。

だから JOA は、そうした優れたクラブの持っているノウハウやマニュアルを他の全てのクラブにも伝えて実践させるべきだと思います。

そうすれば最低限の満足を得られる大会（失敗でない大会）を全国に展開することは可能でしょう。

JOA には、まずは、その辺の認識が必要だと思います。

○ 出来ればより満足度の高い大会になって欲しい。

公認大会にまともに参加するためには競技者登録も必要ですので、その料金も考えると相当の見返りがないと参加者は満足できません。

何千円も支払って、さらに交通費も使って参加した大会が先に述べたような大会だったとしたら、そんな大会には2度と参加するかという気になりますし、オリエンテーリング自体に愛想をつかしても不思議ではありません。

そんなに高額ではない一般の大会では最低限の満足でもいいけれど、高額な公認大会ならより高い満足感を与えてほしいですね。

そのために JOA に行ってほしいのが、ルートガジェットの設置による画像的記録の保存です。

私はルートガジェットに惚れ込んでいるのですが、どうしてこれが日本で普及しないのか不思議でなりません。

普及しない理由の1つには JOA がそれを普及させようという動きを全く見せていないというのがあると思います。

公認大会の公式記録としてラップセンターにあるような記録と全選手のルート図（当然全てのコース図も）をウェブ上に保存して公開するのは、今どきなら当たり前といってもいいのではないかと思います。

過去、一部の大会ではルートガジェットを設置しましたが、いつの間になくなっていたりもします。

こうした記録は公的な JOA が管理して永遠に残して欲しいものです。

そして全日本大会の E クラスの選手ぐらいには全員に GPS を装着させて、その軌跡をこれも公式記録として永遠に残して欲しいものです。

見ごたえのある記録、これを残せば公認大会も値打ちが数段上がると思います。

意見 7

参加者の立場での意見です。

(1) 本 WG が分析している「公認大会の意義およびメリット・問題点」の認識に相違や抜けがないか。

相違や抜けがあるとしたら、それは何か。

“公認大会を開催するメリットとしては、以下の点が挙げられる。・参加者が増える”??

○参加費が高いし、競技者登録をしていないとだめだし、エントリーの時に二の足を踏む人もいます。

(2) 本 WG が提案している「公認大会のありかたに関する提案」に対する意見。

○「大会の質を上げる」「開催のハードルを下げる」のどちらが大切なのですか。

まず、EA の項目が複数あるところから、この時点で、この文書を最後まで読もうという意欲が大きくそがれてしまう。

他人事に思えてくる。・・・仕方ないです。

「開催のハードルを下げる」ほうが公認大会を増やす目的の提案に即したことのようにも考えられる。

質を上げるのは、多くはエリート周辺の人たちのため。

参加者の中には、速く走るより、楽しく走るのを目的とした人がかなりたくさんいる。

楽しく走る人たちに多くの大会が提供される中で、運営経験者が増え、質の改善が得られていくということは無いかな。

質を高めるのは EA だけに負うものか。運営者の経験の積み重ね、運営者数の増加が大切で

はないか。

(3) 公認大会に参加する選手から見た、公認大会に対する要望。

○女性の競技者が少ないことから、最近かなり戸惑うことが多い。

細かい年齢別クラス分け。現在の女性の場合どのくらい意味があるのでしょうか。

日本への競技導入時から走っている高齢層、昔のエリートレベルの中年層、いつでも楽しく走っている中年層。

どこにエントリーすれば最も楽しめるか私はいつも迷うし、他の方はどう考えているか。

意見 8

公認大会について意見させていただきます。

まず公認大会についての問題点ですが、

- ・ 高い
- ・ 遠い
- ・ 行くメリットを感じない
- ・ 開催数が少ない

などあまりいいイメージを持っていない人が一定数いることがあります。

公認大会を質の高い大会として維持していくために参加人数を確保したいということであれば、既に現在一定数の参加者を集めている大会を JOA 側から公認大会として公認するというのはいかがでしょうか。

「公認」という言葉からは JOA 側から大会を「認める」というイメージを受けます。現状では大会主催者が申請する形で「公認にしてもらっている」ような印象を受けます。上記のような理由から参加者が減少することを懸念して公認申請することを渋る場合も聞いたことがあります。大会主催者側には公認大会にするメリットははっきり言ってありません。

逆に JOA から適切な大会を公認大会として認めるという形をとれば、一年のなかで開催数が極端に少なくなることは防げるのではないのでしょうか。

質の担保としては、EA の派遣や紹介などで対応することができると思います。

現状、一般的な非公認大会であっても一定の質は担保されている場合が多いと思います。

大会制度の改善案に含まれる「準拠大会」というものはそのような一般的な大会に名前を付けているだけで実効的な意味は全くないと思います（否定しているわけではありません）。

さまざま述べましたが、公認大会は JOA 側から大会主催者側に「公認」を付与する形が望ましいと思います。

私は公認大会には積極的に参加しようと思っています。よい改革になることを祈念しております。

意見 9

以下の通り、コメントを述べさせていただきます。

(1) WG で何を改善したいのか

冒頭の「近年、・・・」で始まる 3 行で、E 権獲得機会の減少、エリートを目指す選手のモチベーション低下、競技力の低下という WG で検討を開始した目的が書かれていますが、いずれもエリート競技者を対象としたものです。公認大会全般あるいは一般競技者のことには触れていません。

しかし中間報告の内容は、エリートに限定しない全般的な事項について記され、準拠大会（仮称）のような E 権とはあまり関係のなさそうなことまで書かれています。

どちらを向いて WG で検討されたのか、どの方向を向いてコメントを考えればいいのか、迷い、釈然としないまま、コメントを書いております。

(2) 公認大会の問題点---会員支援金

会員支援金が最大の問題と考えています。「会員支援金が高すぎる」とありますが、高い安いの問題ではなく、それ以前の問題として理に合わないことをやってはいけないのです。困窮会員の対策は本来 JOA の任務ではありませんか。競技者に負担させるのは全くの筋違いです。

世の中で助け合いが必要なことは分かります。それならば会員支援使途限定寄付募集とか、大会会場での募金箱方式、参加費への任意の上乗せなど強制でなく集める方法はいくらでもあるはず。大会参加費に上乗せして多額の金額を強制的に徴収するようなことはすべきではありません。

そもそも会員支援は、[会費 10 万円] - [組織育成費 5 万円] = [実質会費 5 万円] の負担にすら苦労している困窮会員を支援するために検討され、余裕のある会員が組織育成費を辞退することでほぼ対応できるはずだったと記憶しています。大会参加費に上乗せしてこれほど多額の費用を会員支援のために強制徴収し続ける必要性、正当性を理解できないでいます。

とにかく理に合わないことは即刻やめるべきと思います。

(3) 主催者内部の EA について

内部の EA でも可とすることは大いに賛成です。ハードルは確実に下がると思います。ただその場合、大会の組織において他の役職（あまり競技と関係のない雑用的なことならい

と思います)と兼務しないこと、外部からのEAと同様独立してEAの職務に専念すること、当然ながらEAとして責任を持ってもらうことの明文化が必要と考えます。

(4) 準拠大会(仮称)について

準拠大会制度のイメージ、狙い、利点がよく分かりません。公認大会へのハードルを下げるためという趣旨のようですが、むしろ逆に相対的に公認大会のハードルが高くなるような気がします。現時点では制度が複雑化するだけで賛成いたしかねます。

特に問題は、「届けなく勝手にJOA諸規則の適用を謳うことを禁止する」という規制(案)です。むしろ逆に規程類は公認かどうかに関わりなくどんどん準拠して使ってもらい、日本国内でいつでもどこでも、また誰が主催者であっても同じ基準で統一したオリエンテーリング競技ができることが最終的に日本におけるオリエンテーリング競技の普及発展につながるのではないのでしょうか。公認大会のハードルを下げることに繋がります。どうかオープン志向であってほしいと願っています。

森 現在の公認大会の制度及びその運用実態は、いろいろ批判はあるもののそれなりに評価できるものと考えています。ただ年間の件数が少ないことは確かですが、上述のように会員支援金の問題が解決され、内部イベントアドバイザー制度の導入が実現すれば、これらの改善を材料に「対面営業」を活発に行うことで、当面は一定の公認大会の件数増を期待できるのではないかと考えています。

意見 10

本件に係る中間とりまとめ、ご苦労様です。最終的な取りまとめまでに、整理することいろいろとあると思いますが、よりよい報告になることを期待しています。

私なりに思うことについて、コメントさせていただきます。競技者としては、とうの昔に一線を退いていますので、運営者の立場として、(1)と(2)(4)について意見させていただきます。

1 公認大会の意義およびメリット・問題点の認識に相違や抜けがあるとしたら、それは何か。

一番の問題点は、「競技者が求める大会の質と運営者の運営レベルの乖離が埋めきれないこと」と「運営者の組織力が低下し個々の力に頼ることが大きくなっている今の運営形態に公認大会制度が対応できなていないこと」と考えます。

○ 大会を運営する以上、参加する競技者が満足するような大会としていくことは当然ですが、組織力が低下し個々の力に頼る今の運営状況の下では、やはり限界があります。

地図の精度など、競技者の要求水準が高くなっていることは誰もが認めると思いますが、その水準に応えられる運営者、組織はどの位いるのでしょうか？

○ 私も公認大会を何回となく運営してきましたが、競技規則の遵守がハードルとは余り

感じていません。むしろ、近年は競技者の要求水準の高さがプレッシャーになっています。

- また、公認大会のメリットは中間報告に記載のとおりと思いますが、公認大会になると規模も大きくなります。それに加えて、質的水準も高くなります。それに耐えうる運営スタッフを確保する難しさもあります。大きなクラブや協会であれば大丈夫かと思いますが、当協会のようにコアメンバー5、6名程度の組織では耐えられるものではありません。「外部から応援をもらえばいいのでは」とか「公認大会に傾注すればいいのでは」と言うことにはなりますが、外部からの応援は費用もかかり赤字要因の1つにもなり限界があります。また、公認大会に傾注した場合、通常行っている大会を開催する余力がなくなり、結果、身近にできるオリエンテーリングの機会を失うことにもなります。これらを天秤にかけ、公認大会を取るか通常大会を取るかを考えた場合、後者を選択する傾向があると思います。

2 本WGが提案している「公認大会のありかたに関する提案」に対する意見 と

4 大会の運営者から見た、公認大会に対する要望

- 上記問題点を考えた場合、3月に北海道協会の宮川さんのコメント「イベントアドバイザー・ディレクターの起用により大会の質を担保できる、という主張は幻想であり、全く機能しない」「大会の質を上げ、開催のハードルを下げる」のではなく「全日本エリートの参加資格の質を維持し、開催のハードルを下げる」という意見を支持します。
- 組織力が低下している今の運営形態でE Aの力で大会の質を上げることは困難と考えます。また、通常の大会を犠牲にしてオリエンテーリングの機会を喪失してまで公認大会に傾注することは本末転倒です。とは言え、大会の質を落とすことも技術力の向上につながりません。考えていくとスパイラルに陥ります。
- これらを打破するには、制度を抜本的に見直す時期に来ていると思います。宮川さんの主張するエリート資格のポイント制や都道府県の推薦制は、公認大会のあり方を考える選択肢としていい案と思いますが、小さな組織でも公認大会を開催できるような、少し高めで競技者が最低限納得する水準のガイドラインを制定するなどして、ある程度の担保は必要ですが。そこをチェックする存在としてE Aがあると思います。
- 今回の中間報告を拝見し、一番感じたのは、もう少し分析が必要なのではないかといった点です。なぜ、青森で公認大会ができ、通常の大会を開催している規模の大きな協会やクラブで公認大会ができないのか、以前は公認大会を開催していた都道府県協会が公認大会を敬遠するようになったのか等々を分析が本中間報告では見えてきません。もう少し意見を聞く必要があるのではないかと感じました。

以 上